

むねた裕之

清潔・誠実、行動力バツグン

日本共産党



プロフィール 1958年北海道厚真町生まれ。函館ラサール高校、東京工業大学、米ホープ大学を卒業。コンピューター会社でシステムエンジニアとして働く。党神奈川県政策副委員長などを歴任。現在、党高津区市政対策委員長。高津区末長在住。家族は妻と長女。

ごあいさつ

むねた裕之

東日本大震災の被災地ボランティアや無料塾で、「人の役に立ちたい」と無償の活動に献身する若者たちに出会いました。その若者たちが、いまの日本では大切にされていません。戦争は絶対にいけないとの思いから入党した私は、いまこそ憲法9条を守り、子どもも若者も高齢者も大切にされる国、川崎市政に変えるためにがんばりたい—その思いから市会に挑戦することを決意しました。みなさまの大きなご支援をよろしくお願いいたします。

みなさんの願い実現へ—全力でとりくみます

- 子ども医療費無料化を中学生まで拡大
- 認可保育園の増設で待機児解消
- 私立幼稚園の保育料補助増額、入園料補助の創設
- 小中学校の35人以下学級の拡大
- 市営久末大谷団地跡地などへの特別養護老人ホームの整備
- 介護保険料・利用料の軽減
- 障害をもつ方が安心して暮らせるまちづくり
- 住宅リフォーム助成制度の創設
- ブラック企業対策、若者の就職支援
- 橘地域にスポーツ施設整備をすすめます
- 久末方面から溝の口行きのバス増便、久末・野川地域にコミュニティバス導入
- 不要不急の大規模開発ストップ、税金ムダづかいをやめさせます
- 消費税10%への増税中止を
- 憲法9条を守り、戦争できる国づくりは許さない

むねた裕之の お約束

●むねた裕之の活動地域● 末長1～3丁目、新作、梶ヶ谷、千年、千年新町、蟹ヶ谷、子母口、明津、久末、野川、上作延

川北のひろば

【連絡先】 〒214-0037 川崎市多摩区西生田1-13-1
日本共産党川崎北部地区委員会 TEL044-281-3501

むねた裕之 検索



私は川崎で生まれ育ちました。公立保育園と学童保育で、楽しい子ども時代をすごしました。でも私の3人の子どもたちは、学童の保育料が高いために、途中で辞めました。「子育てするなら川崎で」と言われた川崎を取り戻したい！相談事をすると気軽に即、かけつけてくれる宗田さんは私達の声を市政に届ける役にぴったりの人です。

3児の母、千年在住 小堀 祥子



宗田裕之さんとは15回ぐらい一緒に被災地に行きました。現地との連絡、段取りなど中心的な存在でした。石巻市ではお米や野菜などを被災者に届けて要望を聞き、仮設住宅の冬の対策で断熱材や玄関の二重化などの改善にも貢献しました。頼りがいのある宗田さんは被災地の人からもボランティアの仲間からも信頼されています。参加者の交流会で、みんなの発言を必ずメモを取って聞く真剣な姿が印象的です。



震災ボランティアの仲間 柳田 智明

子母口小の仮設校舎が蟹ヶ谷の山頂(四方嶺)に建てられ、遠くなった学童保育施設に通う児童にもバス定期代をという要請を拒否した冷たい市政、小児医療費無料化の公約も守ろうとしない市長に失望しています。常に子育てする父母の目線で、市民に寄り添って活動する宗田さんに、身近な願いを実現してほしい。

元学童保育指導員、新作在住 照井 携子



行動力バツグン 住民の願いを 託せる人 に期待します



宗田裕之さんはみなさんの切実な要望に耳を傾け、誠実に応えようと日夜奮闘しています。私も含め高津区で共産党市議が2人いた時は議会質問できめ細かく住民要望を取りあげることができました。宗田さん、石田さんで再び2人を取り戻せば、よりいっそう市政を動かす力、地域の要望を市政に届ける大きな力になります。

元川崎市議員
西村 英二



日本国憲法第9条の戦争放棄、25条の「健康で文化的な生活を営むこと」も変えてしまおうという動きが強まっています。この川崎で憲法を守り、市民の健康を守るために宗田裕之さんこそ市政に必要とされる人です。

久地診療所・婦人科医
介護老人保健施設「樹の丘」施設長
野末 悦子



いま、建設職人は単価(賃金)があまりに低くなって困っています。この先どうなるのか心配しています。全国の政令市で初めて川崎市で「公契約条例」が制定されたのは、私たち建設関係の組合の運動と、共産党市議団の後押しがあったからです。建設職人、労働者の生活向上のために、宗田裕之さんにがんばってほしい。

川崎建設労働組合連合会会長
森 正次



公有地はもとより民有地を使って、小学校区に1カ所以上の特別養護老人ホームを作ってください。自治会も老人会も認知症の方のケアが必要になっています。特に久末の市営久末大谷団地跡地に早く建設してください。

県営久末住宅
老人会会長 中沢 鶴子





困っている人がいたら
放っておけない

震災ボランティア22回

東日本大震災の被災地へ、泥だし、がれき片付け、仮設住宅への物資の届け、要望の聞き取りなど、震災ボランティアを呼びかけ、宮城・福島などの被災地に駆けつけた回数、は22回に。



石巻市で被災住宅の泥だし作業をする、むねた裕之さん

とどろきアリーナへの福島からの避難者に炊き出しのカレーを配る、むねた裕之さん



高津区で放射線を測定する、むねた裕之さん

独自で放射線量を測定 原発ゼロの日本めざす

福島原発事故を受け、「放射能被害が心配」との声にこたえ、高津区内の子どもが集まる公園などで放射線量を測定、原発ゼロを求める官邸前行動や、地元の千年市営公園での「原発ゼロたちばな集会」にも参加。

市民アンケートで寄せられた 住民要望を高津区長に提出

通学路の安全対策、生活道路の整備、バス便の改善など市民アンケートで寄せられた地域の要望について現場を調査、石田和子市議とともに33件の要望書を高津区長に提出しました。



住民要望を高津区長に提出する石田和子市議と、むねた裕之さん

子どもたちも若者も高齢者も
大切にされる川崎市政へ

変えたい

日本共産党
高津区市政対策委員長

むねた裕之

子育て

子どもが保育園に入れなかった
お母さんから悲痛な訴え…

何ヵ所応募しても1歳の子どもが認可保育園に入れなかったお母さんから「仕事を辞めるわけにいかず、実家のある群馬に引っ越して両親に子どもを預け、2人とも群馬から川崎の職場に通うことに。高速道路を使い片道3時間かかる」との声が寄せられました。認可保育園の緊急増設に全力をあげます。

みなさんの
切実な願いを
かならず届けます

高齢者

高津区は特養ホームが
最も少ない！ 急いで整備を

「夫は認知症で目を離すと外に出ていってしまふ。夜も眠れず、このままでは自分も倒れてしまふ。でも特養ホームに入れない」（久末、70代女性）。高津区は市内7区で最も特別養護老人ホームが少ない地域。市営久末大谷住宅跡地への整備などを提案し、増設に全力をつくします。

地域の方と市営久末大谷住宅跡地を視察する石田和子市議と、むねた裕之さん



雇用

若者“使い捨て”
社会は許せない

かつてコンピュータソフトウェア会社に勤務し、月200時間を超える残業で倒れ、辞めていく仲間を見てきました。若者を使い捨てるような社会、市内大企業のリストラ計画に対して実態調査も拒否する市長の姿勢は許せません。地域の雇用を守り拡大する取り組みを強く求めています。

市内の高校を訪問視察し、話を聞く、むねた裕之さん

こんな人です

むねた裕之の生い立ち

北海道苫小牧市近くの厚真町で生まれ、子どもの頃は山や川で遊び、自然の中でのびのび育ちました。父は郵便局員で、当時、自民党員でした。



弟と訪れた江の島で（左が、むねた裕之さん）

反戦平和をつらぬく
日本共産党に入党

浪人時代、核兵器廃絶の署名行動に参加。そのなかで戦前から命がけで戦争に反対し、戦後もその立場をつらぬく日本共産党を知り入党。自民党員だった父も、そして母も、のちに日本共産党に入党しました。

学習塾の塾長代理として
子どもたちとともに

大学生時代の塾講師のアルバイトを経て、約150人の子どもが通っていた学習塾「宮前アカデミー」で塾長が病気で退いたため塾長代理に。子どもたちに「勉強では疑問を持つことが大事だ。いまだに1+1がなぜ2になるのか研究されている」と話しました。現在、高津区で無料塾を開いています。



学習塾「宮前アカデミー」の子どもたちと

若者の相談相手として

日本共産党で青年学生の運動にかかわり、若者の相談相手に。駅頭やネットカフェ前で聞き取りする「青年お仕事実態調査」に取り組み、県に提出。高校生向けに働く権利を知らせる「労働パンフ」を配布させました。

むねた裕之さんに 期待します

各界から期待広がる

秋元サチ子 グループリビング「コセせらぎ」オーナー

伊藤貴美子 川崎市原水爆禁止協議会事務局長

今井 紀好 川崎北部建連組合書記長

梅津 弘 高津宮前民主商工会子母口支部長

木根 彰 横浜建設一般労働組合川崎支部執行委員長

小磯盟四朗 「まちづくり・環境運動川崎市民連絡会」事務局長

菊地 清 蟹ヶ谷鶴ヶ崎自治会役員

菅原 和子 新日本婦人の会高津支部支部長

滝沢 孝行 神奈川土建川崎中央支部常任執行委員

小泉 勝利 電気工業

谷田部洋子 高津年金者組合執行委員長